

昭和初期に登場した創作版画の流星



大貫 芳一郎 仮題《憧憬》 昭和初期 木版多色刷 紙 個人蔵

鹿沼・久我ゆかりの木版画家

大貫 芳一郎 展

2020年5月20日(水) ▶ 6月28日(日)

【会場】 鹿沼市立川上澄生美術館 1階展示ホール (入場無料)

【開館時間】 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日

鹿沼市立川上澄生美術館

〒322-0031 栃木県鹿沼市睦町 287-14 TEL 0289-62-8272
<http://kawakamisumio-bijutsukan.jp/>

【大貫芳一郎とその作風について】

おおぬきよしいちろう

大貫芳一郎は、1908（明治41）年、加蘇村（現 鹿沼市）に生まれた作家です。

大貫は、1930（昭和5）年頃に上京し、本郷洋画研究所の岡田三郎助、辻永おくださぶろうすけ つじひさしに絵画を学びます。

その後、次第に頭角を現し、主に白日会展、光風会展、春台美術展、日本版画協会展を作品発表の場として活動していきました。

現在まで残されている作品を概観すると、油絵、日本画、版画と多岐にわたるジャンルを手掛けていたことが判るほか、『下野詩人集』に「鬼怒川よいとこ」の詩を寄稿したり、本や雑誌の装幀・挿画の仕事をこなしたりするなど、それらに彼の非凡な才能を垣間見ることが出来ます。こうした大貫の作家活動を支援するため、彼の地元では地域の人々たちが後援会を作り、その活動をバックアップしていたこともわかっています。

大貫作品の多くは風景画で、特に街並みよりも、山や海などの自然の景観を愛していたようです。また、最初に洋画を学んだ影響もあってか、一部の作品は油絵のような強いマチエールを持ち、さらに《二艘の舟》、《岸壁》、《工場のある風景》（いずれも仮題）など、1930年代の木版画としては、大型の版にも意欲的に取り組んでいたことが判ります。

大貫の創作活動が15年程の短期間で、さらに若くして没したため、これまで、一般に紹介される機会はほとんどありませんでした。このたび、ご遺族のご協力の下、大貫の木版画を主体とした展覧会を開催いたします。

鹿沼が生んだ創作版画の流星、大貫芳一郎の作品をどうぞお楽しみください。

【出品作品リスト】

	作品タイトル	制作年	素材・技法	寸法 (cm)
1	《日光街道の内 赤塚》	昭和初期	木版多色刷 紙	24.5×32.5
2	仮題《魚》	昭和初期	木版二色刷 紙	10.9×13.5
3	仮題《静物》	昭和初期	木版二色刷 紙	12.0×13.5
4	仮題《岩のある風景》	昭和初期	木版墨刷 紙	16.5×22.0
5	仮題《風景》	昭和初期	木版単色刷 紙	11.5×14.9
6	仮題《風景》	昭和初期	木版多色刷 紙	12.0×15.0
7	仮題《風景》	昭和初期	木版多色刷 紙	23.5×31.8
8	仮題《公園》	昭和初期	木版多色刷 紙	15.0×21.0
9	仮題《風景》	昭和初期	木版多色刷 紙	24.0×33.0
10	仮題《二艘の舟》	昭和初期	木版多色刷 紙	44.5×37.0
11	仮題《憧憬》	昭和初期	木版多色刷 紙	59.0×45.0
12	仮題《岸边》	昭和初期	木版多色刷 紙	44.5×58.5
13	仮題《岸壁》	昭和初期	木版多色刷 紙	49.0×58.0
14	仮題《工場のある風景》	昭和初期	木版多色刷 紙	71.3×59.0
15	《山茶花荘ヨリ見タル加蘇村村長ノ家》	1941（昭和15）年	油彩 キャンバス	24.0×33.0
16	「眠り猫の木箱」	1936（昭和11）年	木製 彩色	15.0×17.0×5.0

※大貫作品はそのタイトルのほとんどが不明のため、便宜上、仮題を付けさせていただいております。
※作品はすべて個人蔵です。
※出品作品は一部変更となる場合があります。